

『本校の課題探究の 取組について』



茨城県立並木中等教育学校
企画研究部長 吉村大介

並木中等の課題探究

- ① ㊦課題探究Ⅰ（1年次）
㊦課題探究Ⅱ（2年次）
㊦課題探究Ⅲ（3年次）
- ② 課題探究基礎（4年次）
- ③ 課題探究Ⅰ～Ⅲ（4～6年次）

前期課程の課題探究

- ① 総合的な学習の時間で
実施
- ② 年次の先生が計画
- ③ 目的
「テーマ設定力の育成」

前期課程の課題探究

- あくまで4～6年次の課題探究が本番
- 1～3年次は準備過程
- 課題探究で一番難しいテーマ設定を4年次でスムーズにできるように、1～3年次で**問いを生み出す力**を育成する

前期課程の課題探究

前期課程では「調べ学習」「問いを立てる」「仮説を立てる」練習を行い、
仮説を立証するためのデータを取ることは行わない



後期課程でデータを取って仮説を立証する楽し
みを残しておく

前期課程でおなかいっぱいさせないことが
ポイント

後期課程の 課題探究

課題探究基礎(4年次, 1単位)

- 論文検索(J-STAGEなど)
- Excelを用いた統計処理
(相関係数, 標準偏差, クロス集計etc.)
- テーマ設定の方法

「課題探究でこんな力をつけてほしい」という理念を伝える時間

後期課程の課題探究の特徴

- 4, 5年次の全生徒が2年間履修(6年次生はゼミで後輩のアドバイス)
- 全員が個人で1人1個のテーマをもって個人探究
- 全教員でゼミ指導

課題探究ゼミ

- **全教員を27のゼミに配属**（1ゼミあたり2名）
- 4年次：5～6名
5年次：5～6名
- **水曜日7時間目**に実施

課題探究ゼミ(27ゼミ)

人文1～3

社会科学1～4

国際文化1～3

スポーツ科学1～2

芸術

生活科学

物理1～2

生物1～2

化学

地球科学

情報科学

数学

医学1～3

自然科学

SDGs



ゼミ活動は生徒同士の対話による相互作用を重視

4年次の課題探究の目的

自分の問いを

見つける

自分が好きなコト，興味があってもっと知りたいことを見つける

探究テーマは難しい
テーマではなく、

「自分の興味・関心のある身近なこと」, 「こうなったらいいな, 便利だな」, 「これで困っているから変えたい, 何とかしたい」

課題探究Ⅰ（４年次，１単位）

４～５月 ゼミツアー

６月 配属ゼミの決定

８～１月 仮テーマによる実証探究
 （お試し探究）

１１月 仮テーマによる実証探究
 報告書提出（第１回）

課題探究Ⅰ（4年次，1単位）

1月 仮テーマによる実証探究
報告書提出（第2回）

1月～2月 テーマの再考

2月 4年次中間発表

3月 正式テーマの決定

テーマ設定に1年間かける

5年次の課題探究の目的

**試行錯誤して
課題解決する力
の育成**

課題探究II(5年次, 1単位)

4月	探究展開
7月	中間報告書提出
12月	5年次校内発表会 口頭発表(15分)
12~1月	論文作成 (A4 10ページ以上)
3月	論文提出

課題探究 校内発表会

5年次全員が口頭発表

1～4年次生全員が参加する



5年次 課題探究 校内発表会

課題探究校内発表

コンテスト

金賞(4名)SSH成果報告会で口頭発表

銀賞(30名)SSH成果報告会でポスター発表

銅賞(30名)

校内発表コンテストの評価のポイント

- ① **試行錯誤しながら探究
されている**
- ② 工夫してオリジナルデータを取っている。また、それが探究に活かされている。
- ③ 探究テーマがユニークで面白い
- ④ 探究内容がユニークで面白い

調べ学習と探究 活動は何が違う のか

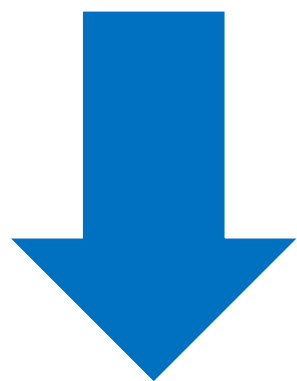
調べ学習はとても大切だと思います



「知る」から
「考えられる」

これからの時代に
求められるのは**正
解のない課題を解
決する探究力**

調べ学習



失敗経験
試行錯誤

探究活動

本校では試行錯誤するし
かけとして**オリジナル**
データを取る
ことを必須としています

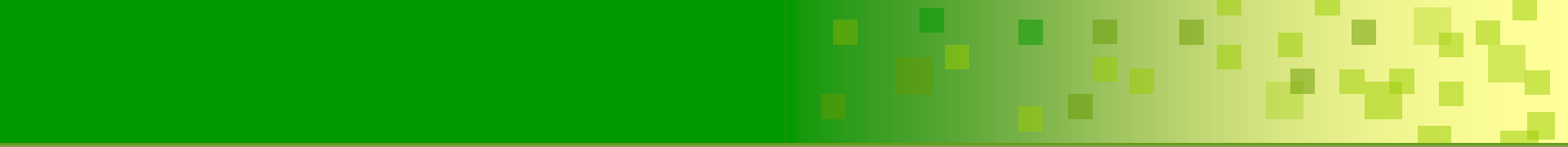
オリジナルデータをとるための 探究方法の例

- 実験・観察
- フィールドワーク
- インタビュー調査
- モニター調査(体験調査)
- 現地調査
- カウント調査
(人数を数える, 個数を数える)

各年次ともオリジナル
データを取った報告
書を年2回提出

試行錯誤とは

データを取る→課題が見つかる→やり方を工夫してデータを取る→課題が見つかる→... の連続



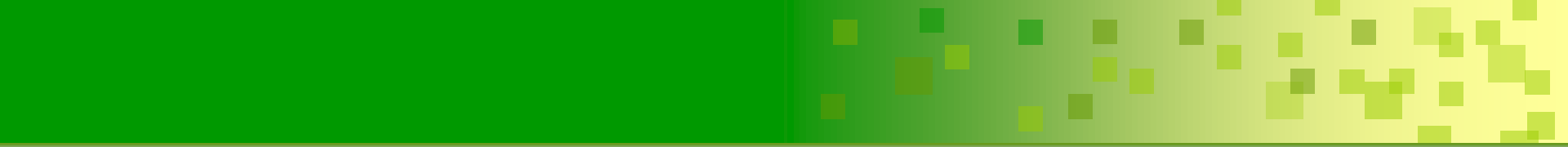
探究とは

失敗から学ぶ

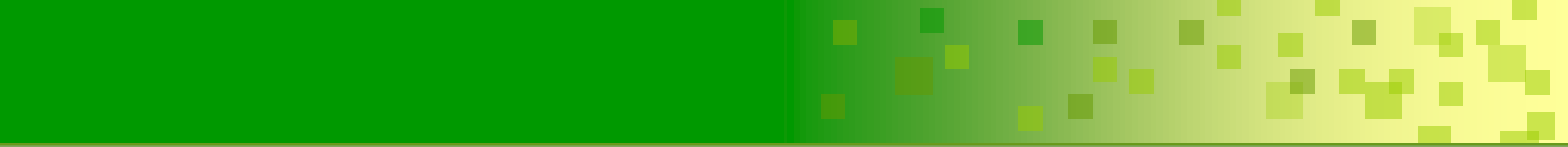
科目

(トライ & エラー)

生徒たちが安心
して失敗できる雰
囲気をつくること
が大切



**本校の課題探究
で大切にしてい
ること**



研究 ≠ 探究

研究

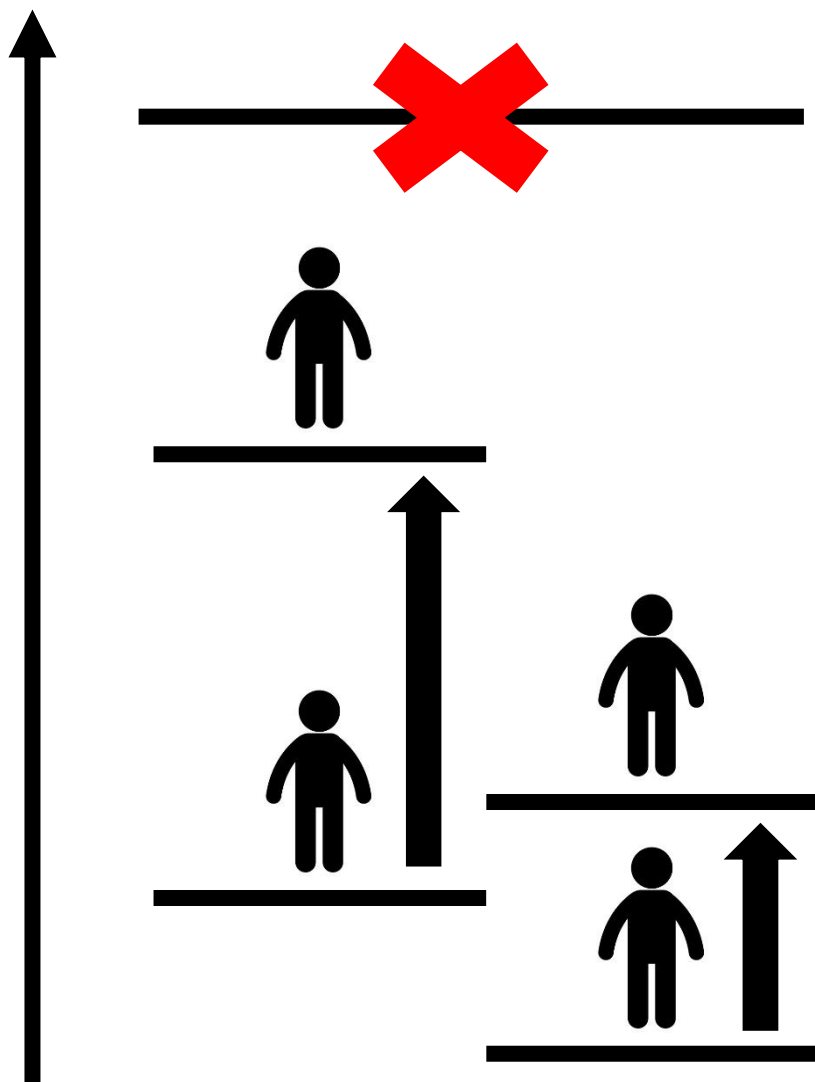
- 未解明なことを明らかにすることが目的
- 統計処理などデータの科学的分析が重要
- 結果(研究成果)が大切

探究

- 自分の興味・関心のある
テーマを見つける
- 自分なりの方法で課題解決
を目指す(試行錯誤)
- テーマを見つけ, 試行錯誤する

過程が大切

探究する力



探究に到達しなければ
ならない共通の
ゴールはありません

スタート時点で
個人差があります

成長度も個人差が
あります

自分の中での2年間
の変容を評価する

素晴らしい探究をする
(成果を残す)ことが
目的ではなく,

過程が大切

(自分の問いを見つける, 試行錯誤
する過程)



本校の課題探究で大切にしていること

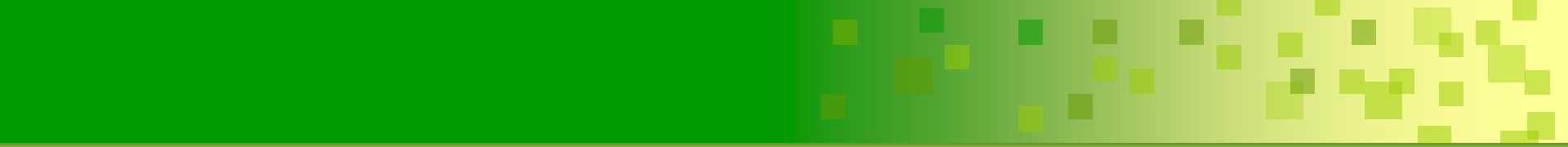
探究を楽しむ



楽しくて自分からやる
から

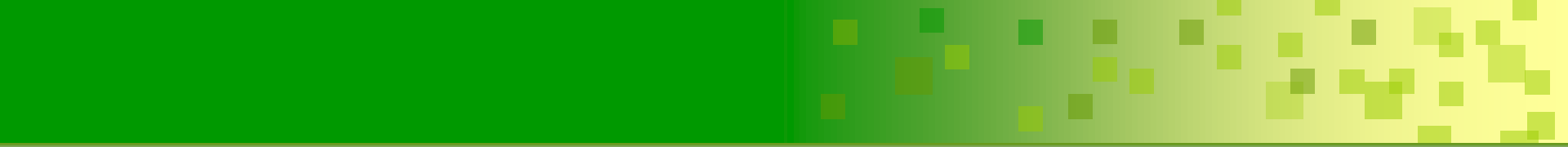
探究が続く

やらされている探究では
探究は続かない

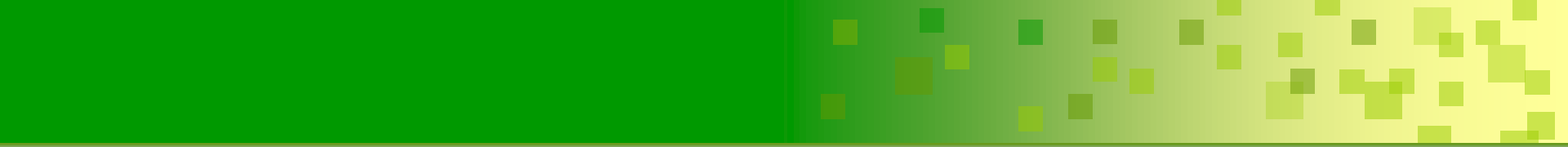


生徒に言い続けていること
「何となく探究になりそうだから、
この探究テーマにしよう」
ではなくて

「うまく探究になるか分からない
けど自分が好きだから・楽しいか
ら、この探究テーマにしよう」



自分が好きな
ことを探究
テーマにする



本校の課題探究は 先輩から学ぶ システム

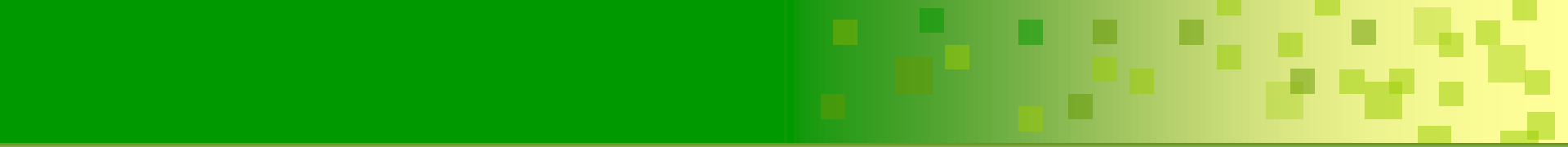
先輩から学ぶ課題探究システム

- ゼミが4～6年次の異年次集団
- 5年次生の校内発表会を1～4年次の全生徒が見る
- SSH成果報告会で金賞生徒の口頭発表と銀賞生徒のポスター発表を3～4年次の全生徒が見る
- 学校のいたる所に、5年次生の優秀者のポスターが掲示してある

課題探究の大変さ

- テーマ設定の大変さ
- オリジナルデータを取ることの大変さ
- 試行錯誤することの大変さ

を一番分かっているのが
探究を経験した上級生



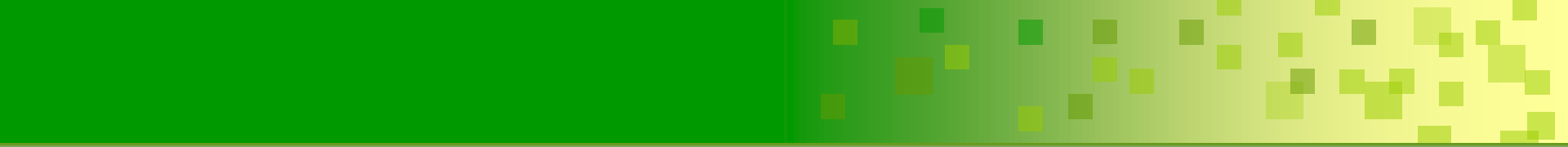
ゼミ活動で先輩と
対話することで
探究のイロハを
学ぶ



楽しそうに探究し
ている先輩の姿
が一番のお手本

先生は「指導者」ではなく
「伴走者」

ゼミで先輩・後輩が自分の失敗体験を自由に話し合える
雰囲気作り



課題探究と授業 の関わり

本校の課題探究ゼミの時間 は「対話の時間」

先輩と探究で困っていること
を対話することで、やるべき
ことを整理する



**対話ができない
と成り立たない**

先生方には授業の中
で対話を多く取り入
れることをお願いして
います

**中学1年生から授業で対話の
練習を繰り返すことで**

●「間違ったことを言っても大丈夫」という心理的安全性が生まれやすい

●学びは他者と協働することでさらに深くなることに気付く

負のスパイラル

対話を取り入れる



対話が盛り上がらない
(対話が学びにつながらない)



対話を取り入れない



対話がうまくならない



対話を取り入れない

正のスパイラル

対話を取り入れる



対話が盛り上がる(対話が学びにつながる)



対話を取り入れる

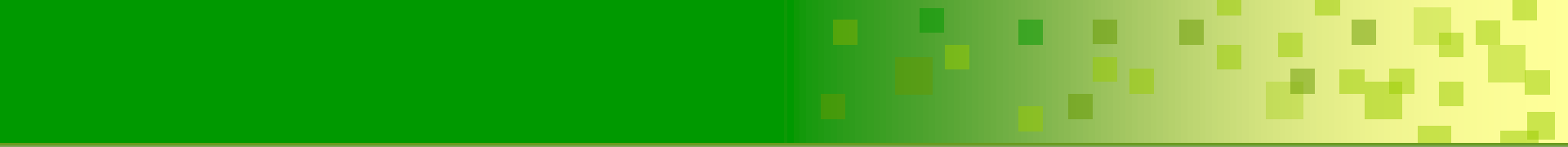


もっと対話がうまくなる

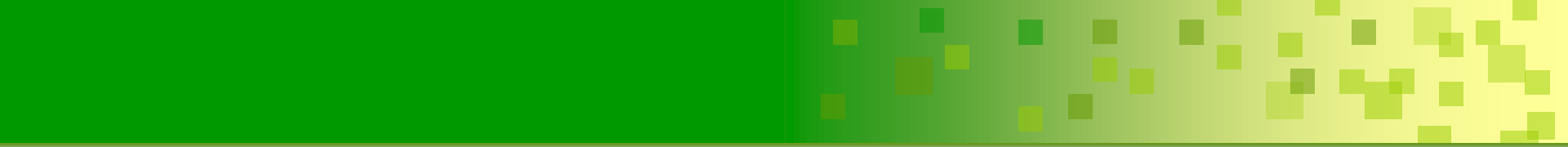


もっと対話を取り入れる

並木中等が目指すパターン



**ゼミでの対話が活性化
することで「先輩か
ら学ぶシステム」が成
立する**



**課題探究はシ
ステムが重要**



課題探究がうまくいきにくいシステム

課題探究が学
年裁量で行わ
れている

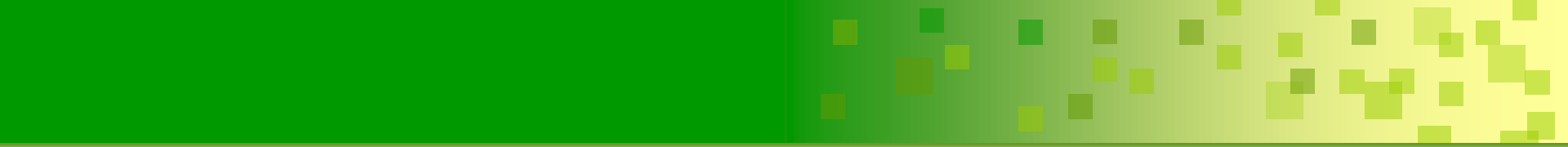
学年の中に課題探究担当の先生がいて毎回の課題探究の内容を考える



学年の先生は忙しいので、課題探究の優先順位が下がり気味になる



「課題探究でこんな力をつけたい」という一貫した理念がなく、その場しのぎの活動になりやすい



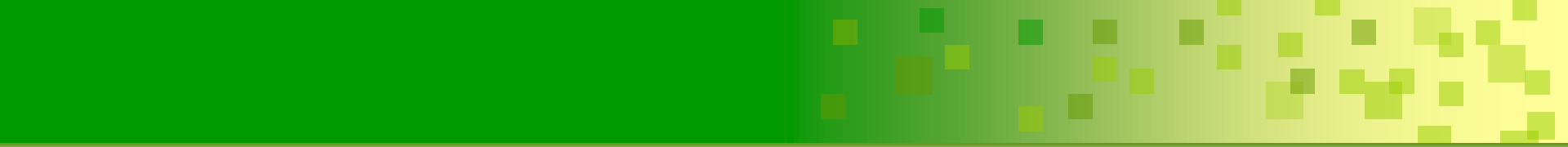
並木中等教育学校の 課題探究のシステム



課題探究を学
年裁量にしない、

課題探究は企画研究
部の課題探究チーム
の教員がマネジメント
する

課題探究は4～6年
次の異年次のゼミ活
動にする



課題探究チームが「3
年間でこんな力を付
けさせたい」と理念を
もつ

課題探究チームがそ
の理念をもとに、毎
回のゼミ活動を提案
する

**課題探究チームが理念をも
とに1年の計画を考える**

●**5年次校内発表会(12月)**

●**4年次中間発表会(2月)**

●**課題探究 校内発表コン
テスト**

課題探究チームはこんなことも担当します

- 各年次、1年間に2回提出の報告書をGoogleドライブで回収
- 未提出者に声かけ
- 報告書を全員分読んで、頑張っている生徒の報告書を校内に掲示

課題探究チームはこんなことも担当します

- 4年次の課題探究基礎で課題探究の理念を生徒に伝え続ける
- 毎月の職員会議で課題探究の理念を先生方に伝え続ける



本校では
先生方は課題探究の伴走者でよく、
授業や担任・学年の仕事に力を注ぐ

課題探究のチームは課題探究の仕事に専念して、課題探究を動かす

役割分担



先生方は**気楽に楽し**
んで大丈夫です

先生方が**楽しんでい**
るから生徒も楽しめる

本校の課題探究の理念

① **正解のない
学び**

の大切さを知る

非認知能力

数値化しにくい能力

= テストで測れない能力

- 課題を見つける力
- アイデアを生み出す発想力
- コミュニケーション力・協働力
- 論理的に思考し課題を解決する力 etc.
- 行動力

本校の課題探究の理念

②『失敗から 学ぶ』科目

「まず試してみよう」の精神

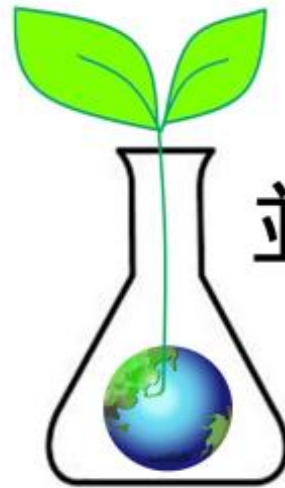
本校の課題探究の理念

③『楽しい』

を大切に

楽しいから続けられる

ご清聴ありがとうございました



並木中等
SSH